

第 78 回総会分科会準備状況報告 2007/05/10 版

	テーマと趣旨	座長・発言者・担当組織委員
第 1 分科会	<p>「医学図書館員としての専門性と認定資格制度」</p> <p>認定資格制度が発足して 3 年。図書館の内外で司書業務のあり方が問われる昨今、資格制度には図書館員の専門性を明確にし、認知度を高める役割が期待されます。昨年、韓国医学図書館協議会にも同様の制度が誕生しました。韓国では資格に医学図書館員の専門性をどのように反映させているのでしょうか。各国の制度比較を行いながら、医学図書館員の専門性について考えます。</p>	<p>座長：坪内政義（愛医）</p> <p>話題提供者： ①日本の状況 山崎美智子（北医） ②韓国の状況（KMLA 参加者） ③アメリカの状況 諏訪部直子（杏林）</p> <p>担当委員：諏訪部直子（杏林）</p>
第 2 分科会	<p>「患者図書室の必要性和設立のための問題点」</p> <p>現在多くの病院で患者図書室が設置されているが、医学部を持つ大学においては、附属図書館が患者図書室の設立に関わる事例はまだ少ない。インフォームドコンセントを情報の面から支援する患者図書室を設立した事例をとおして、その必要性和病院と連携してゆく上での問題点について考える。</p>	<p>座長：山口直比古（東邦）</p> <p>話題提供者： ①大学の立場から 大瀧博久（島根） ②病院の立場から 橋田圭介（高県中）</p> <p>担当委員：高野史子（東医）</p>
第 3 分科会	<p>「オープンアクセスと機関リポジトリ」</p> <p>学術論文の無料・無制限の公開を促すオープンアクセス運動が始まって久しい。大学のデジタル情報貯蔵庫である機関リポジトリも導入が進み、両者が同時に語られることも少なくないが、果たして本来そうなのであろうか。本分科会では、学術情報流通における医学図書館の役割を確認しつつ、オープンアクセスや機関リポジトリといった新しいしくみへの取り組み方を模索する議論の場としたい。</p>	<p>座長：酒井由紀子（慶応）</p> <p>話題提供者： ①三根慎二（慶應義塾大学文学部） ②内島秀樹（金沢大学情報部） ③谷澤滋生（東邦）</p> <p>担当委員：成田俊行（埼がん）</p>
第 4 分科会	<p>「現行医学雑誌所在目録における電子ジャーナル「所在」情報提供：これまでの経緯と今後の展望について」</p> <p>雑誌の所蔵の電子オンリー化が雑誌価格の高騰を背景に急速に増えてきています。これに伴い NACSIS-CAT や「現行医学雑誌所在目録」から冊子の所蔵が減少してきています。2007 年版から「現行」に電子ジャーナルの所蔵も掲載するようになりますが、相互貸借の現場にはどのような影響が出ているのでしょうか。これらについて考えてみたいと思います。</p>	<p>座長：宇野彰男（北医）</p> <p>話題提供者： ①桐原真哉（横浜） ②浅井将行（昭和）</p> <p>担当委員：山下和美（防医）</p>